

AA日本ニューズレター

私書箱

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916



AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03-590-5377

〒東京都豊島区池袋 2-1083 橋ビル 9F



No. 14

< 特別寄稿 >

AAの間口を広く

松井 潔(陽和病院)

私は精神病院で臨床心理の仕事をしている。ことにこの7~8年は多くのアルコールクと接してきている。しかし、精神病院で出会うのは、アルコールク全体のうちのごく一部であり、それもやや偏った一部分であろうと思う。そして、その点は日本のAAも似ていて、メンバーになるルートが精神病院や福祉事務所にかなり偏っているように思われる。

いま日本のアルコールクは200万人にのぼると推計されているが、そのうち、病床や診療所でアルコール依存症・慢性アルコール中毒等の診断を受けて入院または通院している人は2万人にすぎない。そして、この病院というのは大半が精神病院である。かつて受診した人を含めても、この何倍かにすぎないであろう。精神科に受診しているアルコールクの約2/3が生活保護受給者と推測される。生活保護を受けているアルコールクの総数は、統計はないが数万人という程度であろう。かつて受給した人を含めてもこの数倍であろう。

つまり、アルコールクのうちの8割か9割りは、精神病院にいったことも生活保護を受けたこともない人たちなのである。しかし、彼らは病院と縁がないわけではなく、多くの場合、内科系の病床に出入りしているようである。精神科にかかっているアルコールクよりも内科にかかっているほうが、何倍も多いのである。あるいは、生活保護にはならなくても、家庭や近隣や職場で問題を起こしている場合は多いわけである。

ところが、日本のAAでは逆に、精神病院または生活保護を経験していないメンバーのほうがずっと少ない。私は、精神科にもっと多くの人に気楽に来てもらいたいと思っているが、それでも精神科というところはまだ、大きな抵抗を突破しないと受診できないところである。多くのアルコールクが回復するためには、精神病院や福祉事務所を通らずにAAにつながるルートが、大きく開かれている必要があると思うのである。

現状では、メッセージミーティングのほとんどは精神病院で行われており、AAのグループがいわゆる『関係者』をオープンミーティングに招待したり協力を要請したりする時も、その対象は大半が精神病院と福祉事務所の職員のものである。もちろん、これらの機関との関係も大事なことはあるが、そろそろ他のルートを開拓することに重点を移す時なのではないだろうか。

最近、AAと保健所との関係が増えてきたのは、変化のキザシのように思われる。また、マスコミでAAを知る人も、いくらか増えているようである。それにもかかわらず、メッセージにゆくところが精神病院だけというのは、いささかアンバランスである。内科系の病床や企業との付き合いが、今後、大事なことのよう思われる。

さて、せんえつなことを述べたような気もするが、注文を付けるだけではただのせんえつに終わってしまうので、付き合いを広げる方法を具体的に考えてみなければならぬであろう。

ところが、いざ考えてみると、私自身の付き合いが、ほとんど精神科と福祉事務所とAAに限られているのである。最近、保健所との付き合いが少しできた程度である。(うーむ、私も同じ穴のムジナであったか)。むしろ、AAの皆さんのほうが、内科にかかった経験のある人が多いだけに、まだそちらのコネがあるかもしれない。

ということで、ロクなことは言えないが、内科とのコネを作る方法を少しだけ考えてみる。私もこれをやらないと、精神病院で困るのである。時に内科のケースワーカーで、アルコール問題に関心を持つ熱心な人に出会うことがある。まずこういう人をつかまえて、AA中毒になってもらうことであろう。そうになったら今度は、そのケースワーカーにだれか医者を一人つかまえてもらうのである。病院というところは、医者が指示するか支持するかしないと、患者も事務所も動かないところであるから、これは必要である。内科医も

アルコールクをもてあましては多いようであるから、可能性は十分あるであろう。ここまでできれば、あとはメッセージミーティング等も軌道に乗るのではないだろうか。(絵にかいたモチかなあ...)

いずれにしても、AA中毒にする力を持っているのは、私ではなく、その病院にかつてかかったAAの皆さんであろう。(やっぱりロクなことは言えなかった)

<特集>

—今、AA日本は！—
全国各地からのメッセージ)

平成元年、新しい年を迎えて、AA日本も創立以来14年目。来年は15周年記念の年となった。全国のグループ数も約160ぐらいになり、メンバーもおよそ2000名前後と推定される。大半は多くの病院、保健所、福祉、あるいは家族の方々を通してAAにたどりつき、一部は苦しくて自ら足を運んできた仲間たちである。この数は、このアルコール依存症という病気を深く理解してAAにつなげて下さった方々の恩恵なくしては得られなかったものである。関係者の多大な協力の結果といっても過言ではない。AAも5年程前から、各グループがより一層円滑にメッセージを運びやすくするため、また、グループ自体の充実化を計るため、サービス体系が生まれた。それに従い、各地域の小さな草の根運動、イベントも年々盛んに行われるようになってきた。日本のAAも、サービス体系を基に、各地域、各グループの発展の兆しが伺える。今回は、全国のメンバーたちの多大なる協力を得て、ここに『全国からのメッセージ』をお届けすることができた。各グループ、メンバーの皆さまに心から感謝したい。そして全国AAネットワークを通して、一つ一つのグループが地域の発展と共に、多くのメンバーたちの救いの場となるよう、各グループのなご一層の繁栄を祈りたい。(広報委員会)

* 北海道地域

* 中国・四国地域

* 東北地域

* 九州・沖縄地域

* 関東・甲信越地域

<各地域へのお問い合わせは>

* 北陸・中部地域

J S O

* 関西地域

TEL . 03 - 590 - 5377

* 北海道地域

8年前の10月に、神父さんより1枚の案内状をもらい、札幌のAAセミナーに参加したのが、帯広AAのきっかけです。翌年1月、仲間と3人で東京に行き、ミーティングに参加して仲間と始める決意をしました。また3月に札幌にセミナーに行き、57年4月16日、オープンになりました。

最初は札幌から仲間が1週間に1回泊りがけで来てくれ、自分たちも次に行くということを3ヶ月ぐらい続けました。9月より週2回、そしてだんだん回数を増やし、現在は週9回やっております。病床へのメッセージは、集団療法等に参加し、ぼつぼつです。

8年経った今、行政や医療関係者からもAAを理解していただくようになりました。いかに大変な病気かどうかは、実演でしか評価されないでしょう。北海道AAは12年を迎えるところです。私達はメッセージをいただき、今があるわけです。今昔しんでいる仲間

にメッセージを運ぶだけですが、この広い北海道では大変です。何とかインターグループを作って、ネットワークの中でやる話し合いを何度かやり、昨年のラウンドアップをきっかけに話しを進め、今年は正式に北海道インターができました。今年は北海道インター主催のラウンドアップをやることになりました。

昨年は浦河グループの1周年、伊達グループのオープンとそれなりの成果がありました。このようにでき



たのも、プログラム、そして仲間の一体性だと思えます。これは一つの経験ですが、形を作ったものごとを進めるのも良いですけれど、必要に迫られものごとを進めながら形を作っていく方が長続きしそうです。私たち仲間は一つの目的に向かって、時間、知恵、お金のどれかで参加

することができれば、自分自身が楽になります。これからは北海道中の仲間が協力し合って新しいグループ作りをしたいです。さしあたって今年は釧路、北見が目標です。

* 東北地域

昨年、第2回東北ブロック・コンベンションが開かれ、東北各地からグループが集って大きな分かち合いを持つことができた。米軍、三沢基地からのメンバーも参加してくれ、通訳を交えての笑わずにはいられない陽気なミーティングで一日を過ごした。

この時も、やはり関係者からAAの理解を深めた言葉を聞くことができ、AAと関係者の協力が、いかに必要で、また、大切なものであるかが感じられた。

東北には岩手インターグループ、そして宮城インターグループがあるが、年々グループ数も増加し、青森、秋田、岩手、福島、宮城と各地域に着々とAAグループが誕生し、現在16グループにまで発展してきている。それらは常にグループ間の横のつながりを大事に、まだグループとしての力の及ばないところは、他のグループの協力を受け、共に力を出し合っている。

そして同じく宮城インターにおいては、昨年AA宮城インターグループ5周年記念を行うまでに至った。この地区では冬は蔵王でスキー、夏は太陽いっぱい海と味覚のスキンシップと、催し物も豊富である。また、女性のメンバーたちも、まだ数は少ないが、一人、二人と着



実につながっている。初めてここにグループができた時は、東京、仙台間の往復を何十回も続けて、相互のメンバーたちの多大な汗と努力の結晶が今日のグループにまで発展したことを見逃がす訳にはいかない。神に感謝！

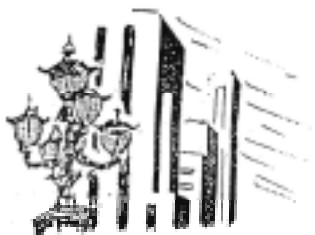
その大切なきずなは今もメンバーたちの宝物となっている。白銀の上で、温泉で、或いは太陽の輝く海でと多彩に繰り広げられるフェローシップには今もなお関東の多くのメンバーが参加している。

今後、地域的な問題やメッセージ活動の課題も多くあることと思うが、何よりもメッセージ活動を新しくきた仲間たちを中心に、意欲的に行うことで着実に成長していくよう期待されている。

* 関東・甲信越地域

「一体性の強化こそ当面の課題」

14年前にアメリカから伝来して、一粒の麦のかたちで「酒をやめたいという願望」を唯一の原動力としてスタートした日本のAAの歩みは、東京の一隅で1グループが小人数ながら地に足の着いた第一歩を踏み出したことに始まり、現在は関東だけでも83グループを数えるまでに成長した。広く関東甲信越地域を1ブロックとしてみた場合、グループ数は平成元年1月現在で90を数える。東京・埼玉・千葉・神奈川を包含するAA東京圏(交通事情から交流が容易、かつ日常的)より遠隔の地、



例えば長野、新潟、栃木、群馬、山梨などでも地元グループが定着している。地方は今後、加速度的にグループと仲間の数を増やし続けるだろう。

<グループ間の連帯>

現在、関東全域に分布する83グループは大きく10地区を構成している。グループで生じた問題は地区の委員会で解決をはかる努力がなされ、各地区間での問題解決とその経験の分かち合いは地区幹事集会で行われている。地区を代表する幹事(2名)が毎月1回集って共通の問題を協議し、問題解決への提案の交換を行うのである。関東全域の問題および今後の方向に関する話し合いは関東サービス常任委員会が担当している。

だが現状では、地区幹事集会は十分に機能しているとは言いがたい。地区の中でのグループ間の連絡、交流が密でない点が多々みられ、中には『われ関せず』と孤立の姿勢を取っているグループも見られるからである。だが、これらの弱点もAAの原理に対する認識が深まるに従って、是正されていくものと思われる。

<一体性強化への最近の展開>

AAの一体性の見地から、東京を中心とする関東ブロックのAAの近況を概観してみよう。一体性の徹底にはグループ内の仲間同士のつながりはもとより、グループ間の交流と連携の深さも決定的要因となるからである。

- ・「関東ラウンドアップ」の年2回開催の定着化。
(昨年は越生と鎌倉で開かれた。今年の開催地は八王子(春)と長野(秋)に決定)
- ・主にサービスについて話し合う「関東サービスフォーラム」の定着化。
- ・AAのメッセージを広範囲に運ぶためのポスターの作

成、配布。

- ・ニューヨークで開催された第10回ワールドサービスミーティングに日本の評議員2名が参加。テーマは「AAとその責任」。彼らが持ち帰ったサービス活動に関するメッセージとAAのビデオ3点をわれわれの活動にどう生かすかの検討が急がれる。
- ・「専門家協力委員会」の発足。AAのメッセージ活動の限界を補い、まだ苦しんでいる中毒者の救済をさらに推進するために専門家との協力、連携を計る。

* 関西地域

関西のなにわ大阪に、関東の仲間によってAAのメッセージが運ばれ、グループが芽生えてから、今年で9年目を迎えています。この事実こそ、苦しんでいるアルコール中毒者へのハイヤーパワーの賜物と、多くの仲間によって関西グループが今日まで存続し支えられて来た証しにほかありません。

7年目を迎えた時期には、かなりメンバーも増えて、1ミーティング1グループという形で30数ヶ所のミーティング場ができ、関西インターグループの一体性を保っていくことに一抹の危機感を覚えましたが、仲間の良識によって、地元としての各地区でホームグループ意識が昂まり、一昨年の後半頃より地区別にグループ化と自立が始まりました。グループ化が進むにともない、関西全体としての従来の地区サービス委員会と、グループから新しく選ばれた代表者メンバーにより、話し合いが昨年の9月に行われ、10月には関西地域は京滋地区、兵庫地区、大阪北地区、大阪南地区の4地区に明確化され、8グループが誕生して自律していき、各グループは地元での12番目のステップ活動にいきづき始めました。

現在各グループはサービス体制も整い、病院メッセージ、各地区内での定期的なオープンスピーカーズミーティングと、一歩一歩充実しながら、多くの仲間が回復に向っています。

8グループの自立後は、各グループの仲間から選出され、そのグループの仲間の意見を反映する『グループ代表』から成る、責任を伴った関西地域サービス委員会へと成長し、関西地域全体の運営と諸問題の解決を計っています。時期同じくして、各グループの会計係りで構成された財務委員会も設けられて、関西セントラルオフィスの維持と財務管理にあたっています。次には広報委員会が近いうちに発足されることになっています。

この様な時期の昨年の春、AA日本15周年記念大会の開催地を関西でとの話が関東常任委員会から提案され、当初は関西グループの力不足とさまざまな不安がありましたが、関東の委員会メンバーとの話し合いも行われて、その問題もほぼ解消され、11月に15周年実行



委員会が関西に設置されました。今年の正月には東京の15周年運営委員会メンバーと大阪で集いが持たれ、具体的な話し合いがされ、今は実行委員会準備が着々と進められています。15周年と相まって、関西グループの10周年にも当る1990年に向けて、関西地域の一体性への意識を高める必要性を感じています。

さらに兵庫地区では、神戸インターグループが第一回目の全国へ向けてのコンベンションを2月11日に、そして関西としては初めてのラウンドアップを古都京都の北部に位置する静かな環境の『かんぼーる京都』で7月7、8、9日に開催することに決まり、全国のAAの仲間とのフェロシップと『AA日本15周年を目指して』をスローガンに、メインテーマ『一致』で、特に新しい多くの仲間の参加と、関係者を含めての出会いと分かち合いの日を心待ちにしています。

大小を問わずグループに何か問題が起きても、グループの良識と仲間の良心でやがては解決されていくこと、そしてグループの中にハイヤーパワーの配慮が何時も何らかの形で働いていること、問題が起きても仲間のハイヤーパワーへの信頼感がより強くなっていくという貴重な体験を得たように感じます。
ハイヤーパワーと仲間へ感謝!

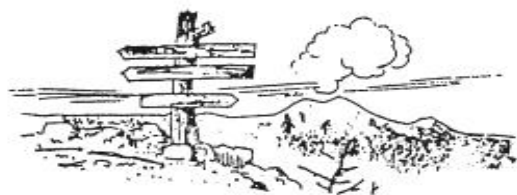
* 北陸・中部地域

全国のAAメンバーの皆さん、関係者の皆さんこんにちは。中部・北陸地域の現状を報告します。ここ数年間、AAの躍進は全国的にめざましいものがあるようですが、われわれの地域でもまったく同様です。2年前までは敦賀と名古屋にひとつずつグループがあっただけで、今や事情は一変し富山、金沢、敦賀、岐阜、名古屋、三河、浜松とほぼ全域に広がる勢いです。

大阪、敦賀、名古屋からの月一度のメッセージがきっかけで、昨年2月、金沢にグループが生まれました。6月には早くも第一回のオープン・スピーカーズ・ミーティングが開かれて、会場に入り切れないほどの大盛況になったのは感動的でした。また、遠く横浜から、そして三河、名古屋からのメッセージと地元の病院の熱意が実って、昨年1月、浜松でもAAが始まり、現在、週2回のミーティングが行われています。名古屋では、昨年グループが5つ自立し、地域に根ざした活動を目指すことになりました。三河ではもうすぐ、最初のオープン・スピーカーズ・ミーティングが開かれようとしています。

現在、中部・北陸地域全体では、グループが10、ミーティング場が33、定期的にメッセージを受け入れてもらっている病院が7つになりました。

名古屋の行事も年々盛大になっています。昨年夏のワークショップには100名ちかく、秋のセミナーにも100名を優に越す人々の参加がありました。関東、関西から駆けつけて下さった多くの仲間、初めてのかたを含



む多くの関係者の方々に感謝しています。専門家との交流も次第に深まり、AAとの連絡交流会を定期的に開いて下さる保健所も出てきました。研究会に呼んでいただいて、AAの現状、ステップ、伝統の話をしたことも再三あります。

とはいえ、われわれの地域のAAはまだ全体として若く、グループの運営に慣れていません。また急速にグループが増えたために、グループ間の連絡が後手にまわっています。地域全体の交流、経験の分かち合い、地域全体の行事はこれからの課題です。全国サービス体系の確立が進められている今、われわれの地域でもこれに呼応した機構の整備が急務となってきました。そのこともあって、セントラル・オフィスの必要が痛感され、昨年オフィスの設立準備委員会もできました。しかし、正式なものを運営するには、月々の献金がまだまだ不足しており、現在は足踏みの状態です。

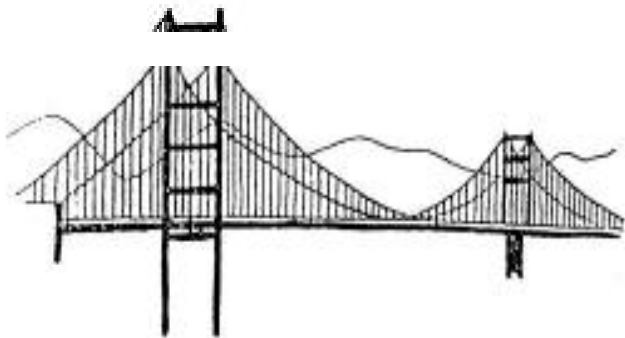
今後とも、全国の仲間から助言をいただき、関係者のご協力をえて、着実な成長をめざしたいと念願しています。

* 中国・四国地域

現在、7つのグループからなるこの地域は、中国地方には、山口、宇部、尾道、倉敷、岡山に、そして四国地方には高知にグループができています。いずれも初めは個々のメンバーからメッセージを受けて発足したグループであるが、中でも山口県は高嶺病院の『AAラーニング(学び舎)』グループは、院長自ら資料を研究し、仲間と共に学び合っているという、熱意にあふれたグループである。その影響の基にやがて、メンバーたちも宇部グ

ループを発足、できる限り力を貰うために九州とのグループの分かち合いを欠かさず続けている。まだ、発足1年半余りで、わからないことも、失敗もある中で、苦労ともせず、他県からの交流をとりながら、いつも前向きにグループの自立に向けて専念している。その甲斐あってか、新しくやってくるメンバーも着実に増え続けている。

地理的に尾道、倉敷、岡山のグループとの交流を深め、これから来る仲間のために、いつでも扉を開けながらグループ活動を行っている。松江には残念ながらまだグループができていないために、遠く大阪まで足を運んでのソプラエティに精を出しているメンバーがいる。そして四国に於ては、現在高知グループが唯一あるだけだが、一人ひとりのメンバーがグループの中で、ビッグブックや12&12に取り組み、ミーティング数も増やして、新しい仲間たちを中心にみんなが一生懸命といった現状である。メッセージでは、精華園と愛宕病院内のミーティングや、病院とのコンタクトを忘れることができない。院内のケースワーカーや家族の方とも一緒にできるオープン・ミーティングも置かれている。四国の場合も、島を越えて遥か東京や近くて大阪からもメンバーが訪



れ、活動を共にしてくれている。やがて四国でも他県にグループができ、AAのメッセージが届くことが期待されている。この地域では、山口と高知で一昨年、対外的にオープン・スピーカーズ・ミーティングが開かれて以来、グループも着実な歩みをたどっている。東京から来たメンバーたちのために宿泊施設を整えて下さった中島

町教会のご好意により、遊びがてらのフェロウシップを持つこともできた。

ここ中国、四国地域はグループの数は少ないが、今の行動が将来、地域的にサービスし合える実りの時に結びつくことが期待されている。

* 九州・沖縄地域



昭和63年、九州地域のグループでの最後のイベント、第1回AA福岡グループ・オープン・スピーカーズ・ミーティングが12月、グループ誕生以来1年にして開かれました。鹿児島、長崎等、九州のグループを始め、山口県宇部市、遠くは関東の仲間まで参加。日曜日の開催にもかかわらず、アルコールクス、医療、行政、家族の方々の多数の参加がありました。医療関係者のスピーチ（ドクターの講演）がプログラムに組み込まれているのは、各県のグループのセミナーでは珍しくありません。ただ、九州最大の都市福岡にAAグループの存在がこれまでなかったのが不思議でならないのです。もっと前にAAができていたら、失うものももっと少なくて済んだのに、とよくミーティング場で耳にしますが、今その時期が来たゆえにハイパーパワーに与えられたのだと思います。

昨年1年間の九州各グループのイベントとしては熊本グループ・オープン・スピーカーズ・ミーティング、ステップ・セミナー、夏の九州・沖縄地域ラウンドアップ等が挙げられます。そのたびに各県のグループと連絡を取り合い、分かち合いが持たれます。また個人的に他県のグループのミーティングへ出席するメンバー達もいました。ラウンドアップの打ち合わせ等、グループが集まる場所としては、中間点の熊本県というのが恒例になってきているようです。

長崎から福岡まで車でわずか3時間半で行けますが、JRを利用すると、前夜から出発して一泊しなければ9時間開催のセミナーに間に合いません。鹿児島までは、7時間余りのドライブミーティングになります。けれども、交通の便に恵まれないにもかかわらず、お互い行き来することによって、ホームグループにない何か違ったもの

を貰っているように思います。

AA（ミネソタ）方式と銘打った専門病院、他の自助グループと併用の病院、『AAはお断り致します』という公立病院等さまざまな病院があります。AAは病院の治療方針に対して意見を持たないでいますが、機会あるたびに（イベントの紹介など）メッセージは運んでいます。最近、セミナー、ラウンドアップ等に行政関係者はもちろんのこと、ドクター、家族の方々の出席が目立つようになりました。これは関東でのイベントよりも顕著な特徴だと思えます。肩を寄せ合って生活し、他人の干渉を受けやすい地方の特色なのかもしれません。それゆえにアノニミテイ（無名性）の大事さを感じます。

平成元年の九州地区の主なイベントとして、4月21日の長崎グループのセミナーと、7月23、24、25日の九州地域ラウンドアップ（指宿にて開催）が決定しています。AA15周年記念大会を来年に控えて、また、まだ苦しんでいるアルコール依存症者へのサービスの円滑化、グループ間の連絡等の機能を果たすために、九州地域としてのセントラルオフィスの誕生も待たれます。医療、行政などの関係者とのコミュニケーションの持続は、このようなイベント等の紹介をしながら、メッセージを届けることではなかるうかと思っています。

（長崎セントラルオフィスより）



各地の主なイベント

・北海道から

- * AA北海道12周年記念
(北海道インターグループ主催)

- - 北の原始林の中で - -

場所： 支笏湖畔ホテル

日時： 1989年6月17日(土)～19日

・東北から

- * 東北ブロックラウンドアップ

場所： 未定

日時： 1989年8月24日(土)、25日(日)

・関西から

- * 関西ラウンドアップ

場所： かんぼ - る京都

日時： 1989年7月7日(金)～9日(日)

・九州から

- * 九州地域ラウンドアップ

場所： 指宿国民休暇村

日時： 1989年7月23日(日)～25日(火)

費用： ￥16,000.-

(2泊3日、参加費￥3,000含む)

・関東から

- * 89 AA 春季関東ラウンドアップ

- - 楽しくやろう、仲間とともに - -

場所： 八王子大学セミナーハウス

日時： 1989年4月9日(日)～11日(火)

費用： ￥12,250.-

(2泊3日、参加費￥2,500含む)

今まで越生で行われていた恒例のラウンドアップは、今回八王子の大学セミナーハウスに場所を移し、静けさと緑一杯の広大なキャンパスの中で開かれることになりました。AAメンバーが一度に集える分かち合いを豊かなものとするために、思う存分、新鮮な空気を吸って、楽しく愉快に一緒にすごしたいと思っています。

また、ご家族の方、行政機関、専門分野の方々にも大いに参加していただき私達と一緒にこの病気からの回復の喜びを分かち合っていたきたいと願っています。『健全なソプラエティ(飲まないで生きる)』の下に実行委員会の準備も、新しい企画の催物も取り入れようと四苦八苦ですが、少しでも皆様にゆっくりとくつろいでいただけるように努力しているところです。多くの方々の参加をお待ちしています。

(89関東ラウンドアップ実行委員会)

AA日本15周年記念集会

ポスター募集

発行：AA日本15周年記念集会実行委員会

— 広 報 部 —

1989年元旦にAA日本15周年記念集会の第5回実行委員会が開かれ、ポスターの製作は広報部が担当することになりました。

さっそく広報部会で検討の結果、ポスターを全国の仲間から公募することにしましたので、ぜひ御協力をお願いします。

全国のグループ、ミーティング場、アルコール関係機関・施設などにおいて、一年近くの間掲示されます。まだ苦しんでいるアルコール中毒者に明るくアピールするものを期待しています。

1. 広報ポスターの必要な掲載事項は以下の通りです。

- a. [AA日本15周年記念集会]とメインテーマ

(未定)

- b. 日 時：1990年3月9日(金)から11日(日)

- c. 会 場：大阪国際交流センター

(大阪市天王寺区上本町8丁目)

d. 主 催：AA日本15周年記念集会

運営委員会

2. 応募は、素人、玄人を問わず、広くAAメンバーや家族の皆さんの参加を希望しますが、意匠・著作権は主催者に譲渡し、印刷条件に合わせてデザインの修正などに応じて下さる方に限ります。応募作品は一切返却できません。

3. 大きさはA2サイズとし、締切は3月末日到着です。選定方法は、後日広報部で決定し、発行は5月末日の予定。

応 募 先(問い合わせ):

AA日本15周年実行委員会・広報部

大阪市福島区福島6-18-1(太源マンション302号)

AA関西セントラル・オフィス内

TEL. 06-453-3206

応募にあたっては、氏名と連絡先を明記して下さい。

<<< A Aの集りにつかわれる言葉 >>>

A Aではメンバーたちがソブラエティを通して、今苦しんでいる仲間メッセージを運ぶために、あらゆる集いを開いています。これらはお互いの経験と力を分かち合って共に生きてゆくのに大切なサービスの一つとなっています。最近全国的に、どの地域でも、このような活動が頻繁に開かれるようになり、その動きはめざましいものとなってきています。ところがその集いの目的とその集会の名称が合わなかったり、各名称の使い分けが分からないという意見が多く寄せられるようになりました。そのような質問にお答えして、ここで簡単に、具体的に説明をします。これらはA Aの中で基本的に提案されているものです。それによって、その意義や目的が明確になり、A Aのキャンパスの中で有効に使われることを希望しています。

[②()内は辞書による和訳の意味。]

* コンベンション (集会、大会)

仲間みんなの集り。

地区による全グループの全員参加の集りで地域の大会。

例：地区総会

インターグループ総会など。

* コンフェレンス (協議、会議)

仲間から選ばれた、資格を持ったメンバーたちによる決定機関。資格を持たないメンバーはビジター、又はオブザーバーとして参加できる。

「生きたサービス。それは、愛のおくりもの」

1989年 A Aスローガン決定

去年のA Aスローガンは「求めるところに確かな奉仕を」でスタートし、サービス体系の確立に一人ひとりがその人のできることで参加して1年が過ぎました。1989年は、常任委員会、地区幹事集会の承認の上で募集したスローガンの中より、広報委員会で選ばせていただき、「生きたサービス。それは愛のおくりもの」に決定しました。

日本の社会も昭和から平成に移り変わり、ひとつの時代の終りを感じます。そんな中で89年のA Aも新たにスローガンを掲げ、一步前進を願い今回より毎回ニューズレターの冒頭に載せていくことにしました。見近なものとして日々の生活の中に生き、心で感じ、心で接するサービスであるよう、「生」と「愛」を強調し、あえて、「おくりもの」はひらがなにしました。

ご協力ありがとうございました。

(広報委員会)

この会議の中にはさらに各テーマにわたって問題を検討してゆくワークショップ(分科会)も含まれている。

* ワークショップ (研修会、研究会)

分科会。

テーマのある各部門に分かれてみんなで話し合いをする集り。

例：コンベンション、コンフェレンス、ラウンドアップなどにもワークショップが組み入れられる。

* ラウンドアップ (狩り集め、集まり)

お祭り。

仲間や家族、関係者とのフェロシップを目的としたお集り。

* フォーラム (公開討論会)

みんな自由に参加して、一つのテーマ(トピック)を通して意見を交し合う集い。

* パブリック・ミーティング (一般の人向けのミーティング)

外部の人向けに開かれる集い。

あらゆる関係者に、A Aの運動の話を中心にメッセージを伝えるミーティング。

外部から依頼されて開く場合と、A A自ら開く場合とがある。

* オープン・スピーカーズ・ミーティング (だれでも参加でき、話し手が前もって決ったミーティング)

外部向けに開かれる集りで、主として新しく仲間になる人たちに対しての手助けのために開かれる集り。従って本人・個人の話が中心となってくる。パブリック・ミーティングが関係者向けなのに対して、こちらの場合、本人向けに開かれる。

* セミナー (研究会)

スピーカーをたて、A Aプログラムに於ける一つ一つの大切な主題をテーマにした研究会で、お互いの回復、成長を願って経験を分かち合う集い。

例：ステップセミナー [ステップの ~ までのメンバー個人の話を通しての分かち合い]

ビッグブックセミナー [ビッグブックをとりあげて経験を分かち合う集い]

伝統セミナー [伝統を中心に個々の経験を分かち合う]

* パネルディスカッション (公開討論会)

あらかじめ選ばれた少数の人間が一つのテーマについて討議し、その後参加者と一緒に討論を進めていく集い。

(広報委員会)